



# 有志 竟成

浜松市立北浜中学校  
学校だより  
令和元年6月12日

## 「敬天愛人」～天を敬い人を愛する～

北浜中学校の学校教育目標は「自他を敬愛し自立できる生徒」です。平成25年から現在のものとなり、今年度で7年目を迎えます。北浜中の職員、生徒全員がこの目標を意識して、毎日の学校生活を送っています。『自他を敬愛する』とは、自分もまわりの人も大切にし、思いやりの心で接することです。言い換えれば「自分らしさ、その人らしさを大切にする」ということです。生徒一人一人はかけがえのない大切な存在です。私たちは「誰にも居場所があり、安心して精一杯学び合える学校づくり」に向けて全校体制で取り組んでいきたいと思えます。『自立』という言葉には、自己選択や自己決定だけで終わるのではなく、自分の感情をコントロールしたり、弱い心に負けないように我慢したりする「自律」の意味も含まれています。「自ら考え、正しく判断し、見通しをもって行動する生徒」「夢や希望をもち、目標に向かって努力し続ける生徒」こそ、私たちが目指す『自立できる生徒』の姿です。



さて、かの幕末の偉人である西郷隆盛が好んで使った言葉に「敬天愛人」（天を敬い人を愛する）があります。旧庄内藩の人々が西郷隆盛から学んだ様々な教訓をまとめた「南州翁遺訓」という書物の中に「道は天地自然の道なるゆえ、講学の道は敬天愛人を目的とし、身を修するに克己をもって終始せよ」（道は天地とともに自然に備わった道なのであって、学問の道は「敬天愛人」を目的として、終始一貫して自分に克つように努めなくてはならない）という文章があります。天と同じように、分け隔てなくまわりに愛情を注ぎ、自分を厳しく律し、無私無欲の人であることを、西郷は終生心がけたのです。つまり、学問を通して何かを学ぶことの最終的な目的は「敬天愛人」であり、その意味は「この世の全ての事象を賛美し尊うと同時に、人に対しても慈愛をもって接すること」であると説いています。「学問において自己修養こそがその目的である」としたこの西郷隆盛の考え方は、現代を生きる私たちにとっても、示唆に富んだ深い教えであると思えます。

### はじめの「一歩」

いくつになっても  
はじめの一歩がある  
その一歩がなければ先はない  
たとえ一歩を踏み出しても  
失敗することもある  
挫折することもある  
ときには自信を失ってしま  
い  
なかなか始めの一歩が  
踏み出せないこともある  
たとえ怖くても不安であっても  
はじめの一歩を踏み出すこと  
その一歩が  
その積み重ねが  
豊かな人生をつくっていく

### 未来は変えられる

消せない過去を思い出して  
後悔にひたしても  
何も変わらない  
まだ起こらない未来を想像して  
不安になっても  
何も変わらない  
変えられるのは今だけ  
変えられるのも自分だけ  
これからの行動によって  
過去を乗り越えられる  
自分の意志によって  
未来は変えられる

※田口久人 そのままでいいより引用